

平和新聞

発行 日本平和委員会
〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
電話 03(3451)6377 FAX 03(3451)6277

大阪版編集 大阪平和委員会

〒543-0012 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第三ビル210号
電話 06(6765)2840 FAX 06(6765)2837
E-mail:osk-heiwa@able.ocn.ne.jp http://www.osk-heiwa.org

飛び入り 「沖縄返還」48周年沖縄連帯行動 学生参加

学生、次回参加を約束

大阪平和委員会は、米軍占領下にあった沖縄の施政権が日本に返された48年前の5月15日を記念して、正午より近鉄上本町駅頭で「沖縄連帯行動」を実施しました。

この行動には、天王寺、生野平和委員会などから9人の仲間が参加。さらに、通りがかり、署名してくれた大学生が飛び入り参加するとうれしいハプニングがありました。上羽事務局長が「韓国の文大統領が軍事費をコロナ対策に回そうとしている一方、安倍政権は国民がコロナ禍で苦しんでいるのに5兆3000億円の防衛費にはいっさい手をつけず」と訴えるのに賛同して参加。この学生は行動後「コロナ禍のもとアルバイトにも行けず学費の支払いに苦しむ現状を変えるためには、軍事費を削って学費の軽減に回してもいい」と約束してくれました。



参加者は全員マスクをかけ、日米地位協定の改定を訴える「マンガ横断幕」や辺野古・大浦の美しい海に生きるジュゴンやウミガメの写真パネルなどを持ってスタンディングを行いました。

立川孝信・大阪のうたごえ協議会副会長もマイクをもち、「辺野古基地建設を今すぐ中止せよ」と訴えました。
日米地位協定改定を求める署名が6筆寄せられました。

オンライン3役会議

大阪平和委員会は、5月16日事務所内で4月1日以来45日ぶりの機関会議となる拡大3役会議を11人(岩本悟・青年協議長、永松玲・吹田事務局長含む)の出席で開催しました。

この会議は、大阪平和委員会の機関会議として初のオンライン方式を取り、西晃会長はじめ千坂純・日本平和委員会事務局長、河戸憲次郎・同組織委員長、二橋元長崎玉県平和委員会代表理事が参加しました。

最初に西会長が「検察私物化を狙う検察庁法改定案を許してはならない」とオンライン挨拶。次いで千坂事務局長がオンライン連帯挨拶。次いで加藤秀雄委員長が2019年度会計監査報告を行いました。
この後上羽事務局長が20分に



わたり当面の方針①沖縄県選勝利など当面の運動課題②「仲間増やし」その他③について提案。この後全役員が一人3分でコロナ禍のなか工夫をこらして進めてきた活動などについて報告。

鈴木副理事長は、5月1日から6日連続でオンライン学習会を成功させた、岩田副会長は、6月30日から大阪で始まる国民平和大行進は、シユプレヒコールや歌いながらの行進は自粛する、亀井事務局次長は、この会議が終わってからの役員会を予定しており7月の戦争展の準備に入る、中村副理事長は、コロナ禍のなか困ったことはないかと高齢者へ電話をかけたまわっている、とそれぞれ発言。

千坂事務局長は「大阪の役員は女性比率が高く青年学生も元気だ」と、河戸組織委員長は「4月1日付けの全国の組織表を見れば、大阪は昨年大会比で会員は全国で一番、機関紙は三番目に多く増やしている」と大阪の女性・青年の活躍と組織強化上の役割の大きさについて

て言及し、大阪平和委員会を励ましてくれました。
なお、このオンライン会議で撮影担当した大阪市立高校の再任用教員が、上羽事務局長の呼びかけに応え、会員・新聞読者になってくれました。

検察庁法改悪やめろ

安倍首相に「内閣による検察人事への介入を合法化する、違憲の検察庁法改定案の撤回を求めます」声明送付

安倍政権と与党は、衆院内閣委員会で審議されている、検事長など検察幹部の人事を首相官邸が握る検察庁法改定案の衆院採決を、今週中にも強行しようとしています。しかも、国家公務員法改正案などとまとめた「東海法案」として審議し、法相の出席も拒否するなど、乱暴極まるやり方で強行しようとしています。新型コロナウイルス被害の収束に力を合わせなければならぬこの時に、火事場泥棒的に憲法と民主主義を破壊する悪法を強行しようとするこの暴挙に、満身の怒りを込めて抗議します。

すでに、9日から10日にかけて検察庁法の改定案に抗議するツイートの世界記録ともいわれる470万件を超すなど、国民の怒りが爆発しています。政府・与党は、この国民の声に耳を傾け、ただちに検察庁改定案を撤回すべきです。

同改定案は、検察官の定年齢を65歳に引き上げ、63歳からは役職につかない(役職定年)としつつ、内閣が認めるときには、63歳を超えて検事長や次長検事などのまま勤務できるとするものです。これは、内閣が検察人事に介入できるようにするものであり、司法の独立、検察の独立の原則を踏みにじる、違憲の法案です。

安倍首相が政治を私物化した「桜を見る会」問題などで首相を刑事告発する動きが強まる中で、「政権に近い」とされる黒川弘務東京高検検事長の定年を延長する閣議決定(1月31日)を、勝手に法の解釈を変えて強行し、違法な決定だとして厳しい批判にさらされてきました。こうした批判を法改定で封じ込め、内閣による検察人事への介入を「合法化」するものに他なりません。

このような不当で違憲の法改定は許されません。法案を撤回することを求めます。
(5月13日 大阪平和委員会)

【総会議案—誤記の訂正】

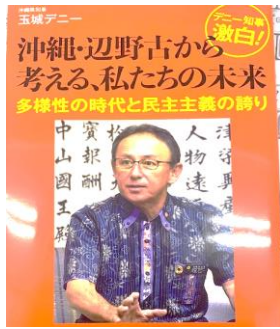
先月号の第64回定期総会(コロナ禍で中止)議案で以下の2カ所の誤記がありましたので、ここに訂正します。
○1頁 「はじめに」の冒頭
昨年8月には→昨年11月には
○4頁左欄の一番下7)基礎組織の総会
東大阪 34人(10/9)を削除
*従って、総会は12基礎組織が実施し総計は356人



会長・理事長の推薦図書

◇西晃会長より―玉城デニー著「沖縄・辺野古から考える、私たちの未来」◇多様性の時代と民主主義の誇り(高文研)

玉城デニー沖縄県知事が、自らの生い立ちを踏まえつつ沖縄と日本の未来と民主主義を熱く語る是非ともお勧めの一冊です。早稲田大学での講演録を元にしたものです。最後の方で会場とのやり取りの中、「私たち本土の者に対して、求めたいものは何でしょうか？」との問に対してデニー知事は、「政治を『正しい政治』にして欲しい、もっと話をしてこんな国をつくりたい、だったらこういう人たちに政治をさせようと考える欲しい」と答えています(103頁〜104頁)。基地に苦しむ沖縄の現状に対し、本土への切なる願いだと思いません。私たちは今こそ、沖縄と連帯し、スクラム組んで正しい政治、正しい為政者を目指しましょう



◇近藤正理事長より―「平和運動」誌のすすめも兼ねて…

「戦後の国体」の終焉

「平和運動」誌は面白い。まだお読みでない方はぜひご購入をお勧めします。「平和運動」(4月号)に「戦後の国体の終焉」(白井聡氏)が掲載されています。私は白井聡氏の「戦後の国体」論をむさぼり読みました。戦前と戦後を画するのはポツダム宣言を受諾し敗戦を認め、いわゆる「玉音放送」です。「朕茲に国体を護持し得て」と言っています。国体という天皇中心主義の国という考えは熱狂的な軍国主義の温床となつたため、天皇制は象徴天皇制に改変されたのです。国体という言葉は死語になった筈です。

なぜ「戦後の国体」が再生したのか、現代史の謎を解き明かします。戦後の国体の起源は、昭和天皇とダグラス・マッカーサーの会見写真を見れば一目瞭然です。「天皇制の存続」と「戦争放棄」が阿吽の呼吸に感じます。つまり「戦後の国体」とは、象徴天皇制というピラミッドの頂点にアメリカを鎮座させたものだったのです。ほどなく東西冷戦構造の中で、サンフランシスコ講和条約と日米安保条約が締結。日本の再軍備とアメリカ従属への道に突き進みます。

せんぜんのにほんはてんのうがこくみんなをちちのように愛しているという物語で支えられてきました。その国体が破壊されたように見えましたが、日米関係の間にスライド、再建され

て、「アメリカは日本を愛してくれているのだ」という命題にすり替えられているのです。日本にはなぜ世界に類を見ない特殊な対米従属体制が生まれか。現実にはアメリカに従属・依存している国は世界にたくさんあります。でも痛みと感じ、快く思っていない。できるだけ制約を外し自由になりた

いと考えているのが普通の国です。ところが日本は、「日米間は従属などしていない、そんな政治的關係ではなく友情で結ばれているのだ」と日本が一方的に言っているのです。「従属を否認する従属」という支配体制は、「自民党はもちろん、政治家、メディア、すべての領域におけるその主流派が、日本はアメリカに従属されているのではなく愛されているのだ」という命題を維持するために血眼になって仕事をしている」と喝破しています。ソ連が崩壊しアメリカに従属する理由が薄くなっています。国民がそのことに気づいた時、戦後の国体は終焉に向かうでしょう。

「西淀病院がんばれ！」

中村玉枝副理事長より寄稿

今まで毎日のように、地域のみなさんと脳トレと筋トレを兼ねたスクエアステップという運動に取り組んできたのですが、新型コロナウイルス感染症の流行でもう2か月以上



も中止しています。私は3年前に指導者資格を得て5か所で教室をしてきましたが、その会場の一つが西栄寺で、無料で貸してもらっています。西栄寺は、いろいろな地域向けの取り組みもされ、介護施設も運営されていて西淀病院とも連携しているお寺ですが、駐車場を6台分西淀病院職員用に貸して下さいました。「西淀病院用臨時駐車場」と書かれた張り紙に「西淀病院がんばれ！」と励ましエールが書かれていて、西淀病院で看護師として働いている娘が「涙が出たわ！」と感激していました。その後「マスク2枚無料配布」の立て看板が出ていたと聞いて、お礼方々行ってみましたら、丁度住職さんがおられて「早くまた皆さんが集まれるといいですね」とお話しできました。お寺の庭では美味しそうに実をつけていたサクランボは見事に一つも無くなって、ボタンがきれいに咲いていました。

WEB学習交流会―20代女性の新たな仲間も迎え、大好評!

片方真佐子副会長より寄稿

大阪の青年・役員が中心とな

【6月の行事案内】

- 5日(月) 憲法会議団体・地域代表者会議 18:30 グリーン会館
- 6日(土) 大阪平和委員会常任理事会 10:30 事務所
- 7日(日) 沖縄県議選投票【勝利に向け沖縄2紙意見広告募集中! 団体1口5千円、個人1口千円、詳細は事務局まで】
- 9日(火) 6・9行動 12:00 近鉄上本町駅頭
- 11日(木) 原水協第7回理事会/通し行進結団式 12:30 事務所
- 13日(土) 日本平和委員会オンライン常任理事会 13:00
- 15日(月) 沖縄連帯行動 12:00 近鉄上本町駅頭
- 30日(火) 平和行進・出発式 11:45 柏原市役所前(~7/7)

り、5月1日〜6日の連休中、オンラインで参加者をつなぐ「世にも平和なWEB学習交流会」を開催。6日間で参加者はのべ130人。第1回「メーデー特集」(日本平和委員会・石川康宏代表理事)、第2回「核兵器廃絶特集」(日本原水協・前川史郎さん他)、第3回「憲法特集」(明日の未来を作る若手弁護士会の会・神保大地さん)、第4回「コロナ特集」(西淀病院副理事長・長瀬文雄さん)、第5回「沖縄特集」(沖縄県議会議員・比嘉瑞己さん、大阪平和委員会・西晃会長)、第6回「平和委員会特集」(日本平和委員会・川田忠明常任理事)。子育てパパや女性の参加も多数。25歳女性の新規入会も迎え、第2弾の企画が待たれています。